

佐賀県教育委員会指定事業として、10月11日（金）に三田川小学校、10月18日（金）に嘉瀬小学校で研究発表会が行われました。

## 三田川小学校

### 自他を尊重しながらコミュニケーション力を高める外国語教育の在り方

#### ～ゴールの姿を意識した中間指導を通して～

三田川小学校では、「中間指導」の在り方に焦点を当てた外国語教育の研究の発表がありました。また、講演では関西外国語大学教授の直山木綿子先生に御講演いただきました。



4年生の授業（手塚先生、ALT ジル先生）

5年生の授業（加藤先生）

6年生の授業（稲田先生、ALT アリズ先生）

コミュニケーション力を高めるために、「単元のゴール」→「各時間のめあて」→「手だて（中間指導、振り返り）」を意識した単元づくりが行われ、言語活動を通して指導することの実際が示されました。また中間指導の場面では、めあての目的、場面、状況に応じた表現になっているのか、何が言えて、何が言えなかったかなどに児童が気づき、自らの課題を認識させる時間になっていました。

## 嘉瀬小学校

### よりよい社会を目指して主体的に働きかけ、学び続ける子どもの育成

#### ～SDGsで未来につなごう！大好き嘉瀬町～

嘉瀬小学校では、SDGsの視点で自分たちの住む町のよさや課題を見つけ、自分ができることを考え行動する児童の育成を目指した研究の発表がありました。生活科・総合的な学習の時間を中心に教科横断的にSDGsの視点から単元を構成し、問題解決型の授業が展開されました。



1年生 生活科の「むかしあそびにチャレンジしよう」の様子（左、中）

分科会の様子

地域の人・もの・ことを活用した探究的な学習の実践が発表され、嘉瀬町の地域の方と昔遊びを体験することで、遊び方やコツを教えてもらう様子が見られました。また、今後幼稚園や保育園、こども園の子どもたちを相手に、昔遊びを教えて、一緒に遊ぶ活動が設定されており、児童が主体的に見通しを持って学習に取り組んでいました。地域の人・もの・ことと「ふれあい」「つながり」「参画する」ことで、市民性が育まれ、自分が住む町に愛着をもつことにつながります。

次号からは、実践紹介シリーズで学力向上に向けた好事例を紹介していきます。どうぞ期待！



## 英語担当教師アンケート結果（10月）

中学生生徒の英語力向上と授業改善に向けて、中学校英語担当教師アンケートを実施しました。「言語活動の充実を図る3つのポイント」、「令和6年度英語教育改善プラン」、「デジタル教材の活用について」についての質問に回答いただきました。特に言語活動中心の授業改善については、大きな改善が見られました。

○「生徒の言語活動時間の割合」授業中 50%以上の時間、言語活動を行っていると感じた割合  
令和5年度英語実施状況調査 59.5%→令和6年10月 **76.2%** +16.7ポイント

互いの考えや気持ちを伝え合うなど生き生きとした授業づくりを中学校英語の先生方が進めていることが分かります。

○「授業における、英語担当教師の英語使用状況」発話の50%以上を英語で行っていると答えた割合  
令和5年度英語実施状況調査 47.3%→令和6年10月 **67.8%** +20.5ポイント

生徒中心の活動を設定することが、教師の英語使用における授業改善にもつながっています。生徒が主体的に学び、英語が好き・楽しいと思えるような生き生きとした授業を目指して、校内や地区でお互いに情報交換をしたり、学び合ったりすることで授業力向上につなげていきましょう。

